

## 平成26年度協働事業提案募集採択事業の概要 NO.7

1 事業名 : みなと玉島発！産業観光でつなぐ「玉島バスセンター物語」

2 実施団体名 : 玉島商工会議所

3 協働担当課 : 地域づくり推進課振興班

### 4 事業概要

本事業では、周辺市町の地域づくり団体、学校、地域商工・水産団体、各事業所等と連携しながら、

- (1) まず、産業観光および町並みの専門家による産業観光資源・町並み建築資源を調査・発掘。
- (2) 連携先団体等にノウハウを提供しながら、当商議所と各地域の連携にふさわしい産業観光コースを新規開発。
- (3) そのうえで、【玉島発⇄備中各地】バスツアーを8コース実施。かつての路線バスでのつながりをもとに、備中南西エリア各地の食と地場産業の「物語」を、ツアーで再構築した。

また、近隣エリアの高校との連携による次代を担う高校生の人材育成面では、事前に学校側と協議を重ねながら、

- (1) 11月9日の玉島商工会議所主催の「玉島物産展」におかやま山陽高校の製菓、調理、自動車3コースの高校生たちが出展（3ブース）。開発した新商品や新メニューの販売を行った。
- (2) さらに、矢掛高校を対象に、観光甲子園に向けたレクチャーや、町並みワークショップ&講演会を開催。また産業観光の専門家が学校に出向いて生徒に助言・指導しながら、12月20日に高校生自身が後半パートを企画し案内役をつとめる「やかげ学」発表会ツアーを実施した。

学生が企画した訪問先のひとつ山ノ上干し柿生産組合では、説明役、発表役、もてなし担当など、ガイド以外の矢掛高校生多数が現地でスタッフとして活躍した。

## 5 事業の流れ等

### (1) 連携先団体等への説明・協議

平成 26 年 5 月～7 月 随時

協議先：大谷地区元気いっぱいまちづくり協議会、山ノ上干し柿生産組合、  
寄島町漁協、高梁商工会議所、矢掛高校、おかやま山陽高校、  
玉島商業

### (2) 産業観光資源調査

平成 26 年 5 月～7 月 随時

調査先：玉島、金光町大谷地区、寄島町内、矢掛町内、里庄町内、船穂・  
真備、高梁市中心部

### (3) 専門家による町並み・建築資源調査

平成 26 年 7 月 12、13 日

調査先：玉島地区、金光町大谷地区、矢掛地区

### (4) 産業観光コース開発

平成 26 年 6 月～9 月 25 日 随時現地を訪問し受け入れ先と協議

### (5) ツアーチラシ作成・配布

平成 26 年 9 月 28 日～

### (6) 矢掛高校

平成 26 年 5 月～12 月 19 日(随時)

観光甲子園向けレクチャー、ツアー案内役の生徒とミーティング

### (7) 町歩きワークショップ&講演会

平成 26 年 11 月 27 日 12:50～16:00

会場：矢掛高校、やかげ町家交流館（講演会）、  
矢掛の町並み（ワークショップ）

参加者：生徒（探究コース 2 年生）、教職員、及び関係者 計 30 名

### (8) ツアー実施 計 8 コース

10 月 29 日、11 月 5、15、26 日、12 月 2、20 日、平成 27 年 2 月 19、27 日

## 6 成果・効果

何より、備中県民局との協働事業ということで、これまで歴史的・経済的なつながりがありながら、近年のエリア再編でなかなか連携が実現しなかった玉島近隣市町との産業観光による連携が実現できたことは、最大の成果といえる。個々に成果・効果を列記していくと…

- (1) バスツアーは受付初日 1 時間で全 8 コース中 7 コースが即完売！玉島スタイルの産業観光の人気と集客効果が周辺市町に認知・理解された。

- (2) 各地域への理解、受け入れ事業所や製品への理解が高まり、受け入れ先での商品購入による具体的な経済効果も高かった（1ツアー12万円前後）
- (3) 産業観光が地域を知る有効な手段として理解され、あらためて地元向けに行ってほしいという要望が地元住民から寄せられている。
- (4) 事業対象先の井笠エリア各市町において、かつてのバス路線による玉島との相互連携が地元商工業の振興や地域活性化に効果があることが認知された。
- (5) 専門家調査により、金光教教学院、金光教研究所、難波教会控所等を、ツアー初公開の至宝建築としてツアー化。
- (6) 玉島・金光連携コースについては、事業を通じて地元団体との連携が進展。27年2月に実施の通常の産業観光ツアーにおいても実際に商品化した。今後も定番ルートとして定着を図っていく。また「門前町」というキーワードで大谷地区の魅力を発信。地元関係者からも高く評価された。
- (7) 専門家が指導・助言し、やかげ学発表会ツアーにおいて、ガイドをつとめた矢掛高校生チームは、井笠広域観光協会主催の観光プランコンテストに産業観光をテーマにしたプランを提案し入選（1次予選トップ通過）。
- (8) ガイドをつとめた高校生たちは地域系大学を志望、専門知識を学んでから地元に戻って地域に貢献したいと語るまでに成長。
- (9) おかやま山陽高校の真剣な姿勢は「物産展に爽やかな新風を吹き込んでくれ感動した。また来年も出店してほしい」と、関係者からの要望が出る。
- (10) 本事業で周辺市町に新たに28カ所の産業観光受け入れ先が誕生した。

※ ツアー参加者数

実施日	コース名	参加者数
10/29	玉島・矢掛連携コース	24名
11/5	門前町金光の至宝建築をたずねて	22名
11/15	「乙島循環線」沿線めぐり	24名
11/26	みなと玉島から高梁へ高瀬舟の物語をたどる	21名
12/2	港町玉島と門前町金光の伝統産業めぐり	22名
12/20	感動の「やかげ学」発表会へ行こう！	22名
1/19	干し柿の里山ノ上の活気づくり！	21名
1/27	備中の国・杜氏ロードの美味しいものづくり	24名
	計	180名

## 7 今後の課題等

今回の協働事業により実現した産業観光による連携を一過性のものとせず、継続的に深化させていくことがいちばんの課題である。

また、倉敷エリア、井笠エリアというエリア区分を乗り越えて、連携することでお互いの地域課題解決を進めていくことが重要である。

幸い、事業終了以降も連携が進んでいる矢掛高校、金光町大谷地区をはじめ、今回の事業で生まれた良好な関係を今後も維持発展させていけるよう努めたい。

## 8 実施状況

	
参加高校との協議	協力団体との協議
	
産業観光資源調査・発掘	専門家による町並み・建築資源調査
	
10月29日（水）Aコース実施	10月29日（水）Aコース実施





11月5日（水）Bコース実施



11月5日（水）Bコース実施



11月9日（日）玉島物産展  
おかやま山陽高校出店



11月9日（日）玉島物産展  
おかやま山陽高校・調理コース



11月15日（土）Cコース実施



11月15日（土）Cコース実施



11月26日（水）Dコース実施



11月26日（水）Dコース実施



11月27日（木）矢掛高校  
講演会と町歩きワークショップ



11月27日（木）矢掛高校  
講演会と町歩きワークショップ



12月2日（火）Eコース実施



12月2日（火）Eコース実施



12月2日（火）Fコース実施  
（1）やかげ学発表会



12月2日（火）Fコース実施  
（2）高校生による好きな矢掛案内



1月19日（月）Gコース実施



1月19日（月）Gコース実施



1月27日（火）Hコース実施



1月27日（火）Hコース実施



## 平成26年度協働事業提案募集採択事業の概要 No.8

1 事業名 : 荒廃茶園の復活再生と“地紅茶”で高粱を元気にする

2 実施団体名 : 百姓のわざ伝承グループ

3 協働担当課 : 農業振興課

### 4 事業概要

#### (1) 荒廃茶園の復活・再生事業

場所は高粱市松原町の岡本さんの茶畑。荒廃している茶畑を復活再生するために、都市住民や大学生に協力してもらい様々な活動を行った。2年目、茶園の刈込、枝の取り出し、除草などにより約30aの茶畑が少しずつ再生してきた。今年度は新しい試みとして「地紅茶合宿」を実施して地紅茶をもっと楽しんでもらうことができた。

#### (2) 第3回高粱地紅茶まつりの開催

3回目となる「高粱地紅茶まつり」は駅前商店街の活性化と合わせて地紅茶を市内外に発信し、高粱の魅力アップにつなげる取り組み。今回は地元の3高校の高校生たち約200人が企画・運営を行い、大いに盛り上がった。雨にもかかわらず昨年の2倍の来場者に、関係者は十分な手ごたえを感じた。また、県内の地紅茶生産者にも参加していただいた。

### 5 事業の流れ等

#### (1) 荒廃茶園の復活・再生事業

< 第1回 > 実施日 : 平成26年6月21日(土)

参加人数 : 31名(応援隊 : 20名、地元農家 : 8名) 普及、市3名

概要 : 荒廃茶園の枝の片付け、草取り、肥料まき、お茶摘み

< 第2回 > 実施日 : 平成26年8月2日(土)

参加人数 : 21名(応援隊 : 14名、地元農家 : 5名) 普及、市2名

概要 : 荒廃茶園の草取り、お茶摘み、釜炒り茶、紅茶づくり体験、お茶の淹れかた教室

<地紅茶合宿>実施日 : 平成26年7月26日(土)、27日(日)

参加人数 : 20名(参加者 : 14名、地元農家2名) 普及、市2名

概要 : お茶摘体験と紅茶の加工・釜炒り茶体験、紅茶染め体験

(2) “地紅茶”で高粱を元気にする事業<第3回高粱地紅茶まつり>開催

ア 実施日：平成26年11月1日(土)

イ 概要：地紅茶カフェ、地紅茶で足湯、地紅茶とスイーツ、高校生による各種パフォーマンスと体験コーナー（手話歌、備中神楽、コーラス、吹奏楽、ダンス、フラワーアレンジメント、ネイルサロン、ペタンク他）

各種団体の出店（フォックスフェイス、インディアントマト焼きそば他）

ウ 来場者数：約1200人（他に高粱高校、高粱城南高校、高粱日新高校を含めて180名）

## 6 成果・効果

### (1) 荒廃茶園の復活・再生事業

2年目となり荒廃していた茶畑は見違えるようにきれいになった。しかし、雑草の繁茂して茶畑の維持管理はなかなか大変になっている。

初年度は10aだったが、2年目の春から園主が頑張ってくれて20a分の荒廃茶園を開拓して、合わせて30aの面積となった。昨年の反省から今年度は2回の荒廃茶園の作業と新企画として地紅茶合宿を行った。

昨年よりも荒廃茶園復活応援隊の参加者は少なかったが、2回目、3回目の参加の経験者も多く、作業は順調に進めた。

地紅茶合宿では2日間の日程で本格的に自分だけのマイ紅茶づくり、紅茶染めを体験したり、宿ではグループインタビュー（“地紅茶の可能性について”）の意見交換を行った。

#### <荒廃茶園復活応援隊の参加者のアンケート>

涼しくて、みなさんやさしくてとても楽しかった。

すごく労力が必要な作業が多く、大変だったが、その分自分で作ったお茶はすごく美味しかった。

大変な作業だったが、新しい発見や楽しさを知ることができたのでよかった。

自分でお茶を作るのは初めてだったので新鮮でより美味しく感じた。同じお茶でも色、味も違うのに驚いた。

こうしたイベントを一過性のことにするのではなく継続していくことが大切と思った。

地元の人々の負担が増えないようにしてほしい。

今回で5回目の参加だったが、1回目の荒れていた茶畑がきれいになっていることに喜びを感じた。



お茶の釜炒りや乾燥を通してお茶作りを経験できて楽しかった。  
高粱紅茶は飲みやすく大好きです。また、何かイベントなどがあれば参加したいです。  
2回目の参加でしたが、今回もとても楽しかった。草取りも楽しくてまた茶畑を復活させたいです。  
今回はありがとうございました。また、機会があれば参加したいです。  
お茶摘みがしたかったので、今回できたのがうれしかったです！  
いつも何気なく飲んでいるお茶がこんなに大変な作業で作られているとは。  
貴重な体験でした。とても楽しくわいわい作業ができました。また来ます！

## (2) “地紅茶”で高粱を元気にする事業<第3回高粱地紅茶まつり>開催

今回で3回目となる「高粱地紅茶まつり」は「11月1日＝紅茶の日」に合わせて開催した。

今回は高粱高校、高粱城南高校、高粱日新高校の3高校が中心となって企画、運営をしてくれた。地紅茶まつりを楽しみにしてくれている地紅茶ファンがたくさん参加してくれて盛り上がった。高校生たちが新しい企画として「ペタンク体験」「ネイルサロン」や「新商品のお菓子」のお披露目もあった。地紅茶カフェでは県内外の国産紅茶の飲み比べ、地紅茶の足湯体験も人気だった。広報、PRにも力を入れた結果、当日は、生憎の雨にもかかわらず、来場者は1200人以上と昨年の2倍くらいになった。参加者の40%が市外からで、いろいろな年代の方がいて、家族連れでの参加が多かった。

地紅茶のもつ魅力、可能性を十分に確認することができた。

### <「第3回高粱地紅茶まつり」参加者アンケート>

来年も開催して欲しいです。  
お菓子が売り切れで残念だった。アレンジメントが楽しかった。  
午後から来たらお菓子がなくて残念でした。紅茶を飲みながら食べたかったです。  
吹奏楽部の音楽はとてもいいですね。これからも頑張ってください。  
国産紅茶は飲み慣れたお茶に近くストレートで何杯でも飲めるので好きです。  
売店数が少なく、その少ない店も午後には完売しているものがほとんど。  
紅茶はとても美味しかったです。  
来年はまた違った種類の紅茶を飲ませてくれたらありがたいです。  
各高校の特色をもっとだして楽しんでもよいかな？  
昼から来たので午前中の雰囲気がよくわかりませんでした。  
もっとお菓子が充実しているとよいです。

昼ご飯になりそうなものがすでに売り切れでした。

紅茶の飲み比べはとても良かったです。

いろいろと飲めてそしておいしくいれられていました。

高粱紅茶がおいしかったです。

紅茶の飲み比べがおいしかったです。

すごくおいしく飲みました。

色々とおいしいもの（足湯）があり栄町商店街がにぎわいがあったので良かったです。

高校生が大勢活躍されているんですね。フォックスフェイスで通りが飾られていてステキ。

ハンドマッサージが良かった。高校生がよく頑張っていた。

商店街の活性化になる。

倉敷でもいろいろイベントをしていて美観地区から商店街へ観光客が流れています。

## 7 今後の課題等

- (1) 荒廃茶園の作業は、夏の暑い時期なので体調管理の面からあまり長時間はできない。参加者が楽しみながら、取り組んでもらえる内容にしていく必要がある。また、地元農家を巻き込んで継続的に茶畑の管理をしていく仕組みをつくりたい。荒廃茶園の再生のプロセス、成果をきちんと保存し、更につぎの荒廃茶園の再生につなげたい。

荒廃茶園が再生した後の茶を利用したビジネスにも挑戦したい。

- (2) 市、県など行政や関係機関の支援をいただきながら実施してきたが、今後、継続していくにはあまりお金のかからないイベントの在り方を追求していく必要がある。

地元高校、商店街、茶農家との連携をもっと密にしていきたい。

## 8 実施状況

### (1) 荒廃茶園復活再生の取り組み

	
参加者に説明をする (6月21日)	作業風景 (6月21日)
	
作業風景 (6月21日)	作業が終わって記念撮影 (6月21日)
	
草取り作業を楽しむ (8月2日)	釜炒り茶の体験 (8月2日)
	
紅茶体験 (7月26日)	紅茶染め体験 (7月26日)





紅茶染め体験（7月26日）



紅茶染め体験（7月26日）



グループインタビュー（7月26日）



グループインタビュー（7月26日）



紅茶体験2日目（7月27日）



紅茶体験2日目 発酵中（7月27日）



紅茶体験2日目 試飲中（7月27日）



紅茶体験2日目 紅茶が完成（7月27日）



(2) ”地紅茶”で高粱を元気にする 第3回高粱地紅茶まつり (11月1日)

	
<p>第3回地紅茶まつり開催 (11月1日)</p>	<p>毎年参加してくれるお客様</p>
	
<p>3 高校で地紅茶カフェ</p>	<p>進行はすべて高校生たち</p>
	
<p>3 高校で地紅茶カフェ</p>	<p>新企画・紅茶の足湯が人気!</p>
	
<p>高校生による備中神楽</p>	<p>ネイルサロンが女性に大人気!</p>



## 平成26年度協働事業提案採択事業の概要 No.9

1 事業名 : 自閉症療育セミナー及び治療教育相談会

2 実施団体名 : NPO法人 岡山県自閉症協会

3 協働担当課 : 福祉振興課障害福祉・保護班

### 4 事業概要

一般市民をはじめ自閉症児（者）を家庭に持つ保護者や支援者の方々を対象に、自閉症・発達障害に対する理解を深めていただくとともに、日頃から自閉症・発達障害児（者）に関して家庭や職場、地域で抱えている様々な課題に対する解決方法を提供するセミナー及び相談会を開催する。

### 5 事業の流れ等

9月（中旬）ポスター、チラシの配布

10月1日 参加者募集開始（締切：自閉症協会セミナー 11月27日）

（〃 : 治療教育相談会 11月10日）

11月30日 岡山県自閉症協会セミナー及び治療教育相談会を開催

（場所：総社市総合福祉センター）

セミナー参加者207名、相談会11組、託児サービス利用12名

### 6 成果・効果

当該事業は県西部（平成24年度）と県北部（平成25年度）においても実施し、発達障害児の保護者等から好評を博しているところであったが、今年度は障害福祉分野において熱心な総社市で開催することで、発達障害に対する理解や支援の機運がより一層高まった。

### 7 今後の課題等

発達障害児の学齢期の支援として、思春期や成人期につながる関わりについてのセミナーであったことから、保護者等から好評を博したが、今後の課題として、より多くの教育関係者（特に中学校、高等学校）が参加し更に理解を深められるセミナー内容等を検討する必要がある。



## 8 実施状況



受付



セミナー



セミナー



セミナー



## 平成26年度協働事業提案募集採択事業の概要 No. 10

1 事業名 : 発達障がい連続勉強会&情報交換会

2 実施団体名 : NPO法人 ていーたいむ

3 協働担当課 : 福祉振興課障害福祉・保護班

### 4 事業概要

発達障がいの子どもの持つ保護者等を対象に、「ハッピーサポート勉強会」(座学形式の勉強会とグループ形式の情報交換会)を開催し、発達障がいの子育てに必要な知識や情報を学ぶとともに、日頃から抱えている悩みや困りごとを参加者同士で共有し、仲間を見つけ育ちあう機会を提供することで、孤立化をふせぎ、困り感の着実な軽減を図る。

### 5 事業の流れ等

6月初旬 チラシの配布等による広報

8月3日 第1回ハッピーサポート勉強会を開催

(場所: マービーふれあいセンター)

(参加者数: 講座 96 名、情報交換会 23 名) (託児利用: 8 組 12 人)

9月10日 第2回ハッピーサポート勉強会を開催

(場所: ライフパークくらしき)

(参加者数: 講座 49 名、情報交換会 13 名) (託児利用: 3 組 6 人)

11月20日 第3回ハッピーサポート勉強会を開催

(場所: 倉敷市民会館)

(参加者数: 講座 59 名、情報交換会 16 名) (託児利用: 5 組 9 人)

12月3日 第4回ハッピーサポート勉強会を開催

(場所: ライフパークくらしき)

(参加者数: 講座 52 名、情報交換会 13 名) (託児利用: 4 組 7 人)

1月14日 第5回ハッピーサポート勉強会を開催

(場所: ライフパークくらしき)

(参加者数: 講座 39 名、情報交換会 13 名) (託児利用: 2 組 4 人)

2月5日 第6回ハッピーサポート勉強会を開催

(場所: ライフパークくらしき)

(参加者数: 講座 48 名、情報交換会 19 名) (託児利用: 4 組 8 人)

## 6 成果・効果

座学形式の勉強会を受講することで、発達障がいに関する理解が深まるだけでなく、子どもにどう対応したらいいかヒントを得たという声が最も多く、連続講座が実践的な学びになった。情報交換会では、同じような立場の保護者同士で悩みや不安を打ち明け合い共有することでひとりじゃないと安心したり、異年齢の子どもの保護者同士で情報交換を行うことにより、先行きの見通しが持てるなど、子育てに対する不安を軽減することができた。

また、過去に相談会や交流会などに参加したことの無い参加者が6割以上であり、これまでつながりが持てていなかった人たちに相談できる場を提供できたことも含め、発達障がいの子育てに取り組みはじめた保護者の孤立化を防ぐという意味で大きな成果があった。

## 7 今後の課題等

参加者の内容への評価は非常に高かったが、参加者が定員に達しておらず、求めている人に届くための広報の工夫が必要である。

また、平日開催では仕事をしている人には参加しにくいという声もあり、週末での開催や、今年度実施した基礎編に加え、より踏み込んだ内容のステップアップ編の提供が課題となっている。

## 8 実施状況



第1回 公開講座



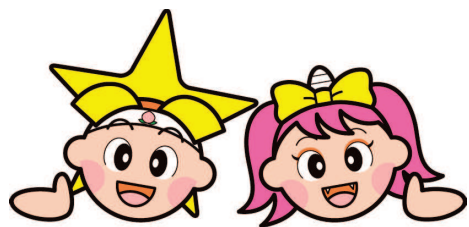
第1回 情報交換会



第5回 連続講座



第5回 情報交換会





## 平成26年度協働事業提案募集採択事業の概要 No. 11

1 事業名 : 高校生による“備中で暮らすまちの匠（先人）への聞き書き”

2 実施団体名 : 「聞き書き」実行委員会

3 協働担当課 : 地域づくり推進課市町村連携班

### 4 事業概要

高校生が、地域に根ざして生きているまちの匠・名人から、知恵や技術、ものの考え方を「聞き」、その匠・名人なりの工夫や知恵、技術が加わった人生観を、匠・名人の言葉だけで「書き」おこし文章にまとめる。また、研修会・発表会の実施、成果物である冊子作成等を行う。

### 5 事業の流れ等

7月11・12日 「聞き書き」研修会（38名参加）

講師に澁澤寿一氏を招き、「聞き書き」を行う高校生を対象にした研修会を実施した。

7月30日 「聞き書き」上映会&トークセッション（24名参加）

聞き書きを行う高校生を取材したドキュメンタリー映画「森聞き」の上映会とともに、講師の室貴由輝先生と「聞き書き」に関する質疑応答を行った。

7月～8月 「聞き書き」の実施

地元の匠（先人）に高校生が「聞く」作業を行った。

9月25日 文章構成の研修会（24名参加）

講師に室貴由輝先生を招き、「書き」おこした文章を基に効果的な文書作成手法を学んだ。

12月13日 発表の仕方研修会（20名参加）

講師に井原放送アナウンサー金盛千裕氏を招き、人前で発表するときの心構えや手法を学んだ。

12月23日 発表会&フォーラム（46名参加）

倉敷新溪園にて、高校生が「聞き書き」の成果を発表した。

## 6 成果・効果

世代間の交流が疎遠になりつつある現代において、高校生がお年寄りから話を聞く機会が少なくなっている中、匠・名人の言葉を「聞き書き」することにより、その地域の文化・伝統や技術を守り継承する良い契機となった。

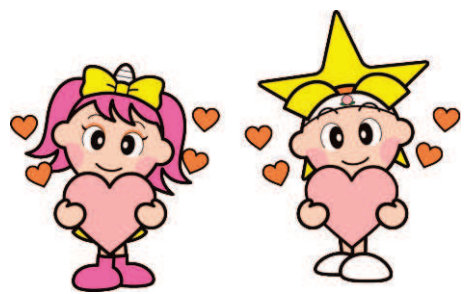
また、高校生が匠・名人の知恵や心を「聞き」、「書き」、それを他者に「伝える」ことにより、社会との関わりを持つ大切さを体験し、大きく成長することとなった。

## 7 今後の課題等

事業を継続的に実施するためには財源確保の課題はあるが、今後は大学生による地域の老舗や企業への「聞き書き」を実施することにより、企業と地域を結び地元での人材確保へと結びつくような活動を検討したい。

8 実施状況

	
<p>「聞き書き」研修会</p>	<p>「聞き書き」研修会</p>
	
<p>「聞き書き」上映会&amp;トークセッション</p>	<p>「聞き書き」上映会&amp;トークセッション</p>
	
<p>「聞き書き」の実施</p>	<p>「聞き書き」の実施</p>
	
<p>発表会&amp;フォーラム</p>	<p>発表会&amp;フォーラム</p>





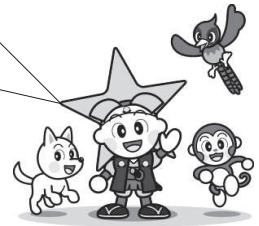
皆さんの力が  
必要です！

岡山県備中県民局

# 協働事業提案募集

岡山県備中県民局では、地域の諸課題を解決し、個性豊かで活力ある「生き生きおかやま」を実現するため、NPO、市民活動団体、町内会、ボランティア団体など多様な主体との協働の取り組みとして、『協働事業提案募集』を実施します。

皆さんの自由な発想と情熱で、『備中の地域づくり』に参加しませんか？



## 募集テーマ

詳しくは次ページを見てね！

### ◎指定テーマ

備中県民局管内の様々な諸課題や、今後取り組むべき事柄について、8つの具体的なテーマを設定しています。この中から選択したテーマに沿って、事業を提案してください。

### ◎自由テーマ

指定テーマには該当しないものであっても、協働のテーマとしてふさわしく、かつ必要・効果的と認められる事業であれば、提案してください。

## 応募方法等

所定の応募用紙に必要事項を記入し、必要書類を添付のうえ、郵送、持参、FAX、Eメールのいずれかにより右記提出先まで提出ください。

応募様式及び詳細な内容は、「平成26年度岡山県備中県民局協働事業提案募集要項」に掲載しています。応募される場合は、必ずこちらもお読みください。

要項・様式は、右記問い合わせ先及び備中県民局管内各地域事務所地域総務課で配布するほか、備中県民局ホームページからもダウンロードできます。

## 募集期間

平成25年 12月10日(火) ~  
平成26年 1月28日(火)  
(最終日消印有効)

### 提出・お問い合わせ先

〒710-8530 倉敷市羽島1083  
岡山県備中県民局 協働推進室 企画班  
TEL : 086-434-7003(直通)  
FAX : 086-426-9305

指定テーマは以下に掲げる8項目です。このテーマに沿って事業提案をお願いします。

なお、指定テーマ以外であっても、協働のテーマとしてふさわしく、かつ必要・効果的と認められる事業があれば、自由テーマとしてご提案ください。

※ 本事業は平成26年度に実施するものであることから、岡山県議会における平成26年度当初予算において、関係予算が成立することが条件となります。

### ① 子どもと若者が健やかに育つ社会づくりの推進

備中県民局管内の各地域の現状と課題を踏まえ、子どもと若者が健やかに育つ社会づくりを推進するために効果的な事業の企画・運営

【例えば・・・】

- ・子どもや若者が触れ合う居場所づくりの企画・運営
- ・地域で子どもが参加するボランティア活動や社会貢献活動の企画・運営
- ・子どもや若者が事故や犯罪に巻き込まれないための取組の企画・運営

### ② 備中の地域・伝統文化の発信

備中地域の個性ある文化等をクローズアップし、広く情報発信を行うことにより、地域の文化振興を図る事業の企画・運営

【例えば・・・】

- ・備中地域の「まちなみ」保存活動団体のネットワークづくりやネットワーク等を活かしたイベント、研修会等の企画・運営
- ・備中地域の個性ある産業、歴史、伝統、食など地域の特色を踏まえ、内外に情報発信することができるシンポジウム等の企画・運営
- ・特定地域を対象とするのではなく、備中の広域的エリアを舞台とすることにより、「文化で備中を結ぶ」ことが期待される取組

### ③ 中山間地域の活性化の推進

企業や大学、NPO等が中山間地域と連携し、交流会、ツアー、農業体験等を通じて、中山間地域の活性化に資する事業の企画・運営

【例えば・・・】

- ・都市部から中山間地域への移住者を増加させるための交流会やツアー等の企画・運営
- ・中山間地域と都市部の若者がつながるインターンシップ等の企画・運営

### ④ 産業・観光の振興

備中地域の「強みを活かした産業競争力の強化」や「雇用の確保」等、産業の振興に効果的な事業の企画・運営

【例えば・・・】

- ・就職促進のため、就職に必要な知識、技能を習得させるための研修や、受講者の適性とニーズに即した訓練等の企画・運営
- ・着地型観光や産業観光のスポットやルートの開発及びそれらを定着させるための事業の企画・運営
- ・地域資源を活用した特産品づくりや地域の産業振興につながるセミナーの開催

## ⑤ 体験型環境学習事業の実施

大気・水環境・地球温暖化等の問題に対し、森林との関係や里山・里海が果たす役割、ライフスタイルの見直しの必要性等、環境保全意識の高揚や環境改善への取組の推進につなげるための、小学生等を対象にした体験型環境学習の企画・運営

【例えば…】

- ・汚水処理場や自然エネルギー関連施設(メガソーラー、バイオマス等)、エコ住宅等の施設見学事業の企画・運営
- ・河川の源流地域の森林や里山、里海をフィールドとして自然体験学習ができるエコツアー事業の企画・運営
- ・ソーラークッカーや自転車発電などの機材を使った省エネルギー体験事業の企画・運営
- ・地球温暖化や気象に関する実験、星空観察等の事業の企画・運営

## ⑥ 耕作放棄地の解消

地域の農業者の活動に加え、都市住民や企業、NPO法人、教育機関、行政機関等、地域内外の多様な人々の支援等を活用した耕作放棄地の解消・地域活性化モデルの立案及び実証

【例えば…】

- ・食糧自給率向上や地産地消、担い手育成等を目的に、耕作放棄地を活用した持続可能な営農モデルの企画・実践
- ・耕作放棄地の発生防止策、地域の活性化方策の検討・実証
- ・消費者や企業等、多様な主体による地産地消や食育推進など、地域活動の場としての耕作放棄地の活用に向けた企画・運営

## ⑦ 食と農をつなぐかけはし推進活動

備中地域の多彩な食材を活用し、生産者と消費者の相互理解を深めるイベントの開催や、6次産業化や農商工連携による新商品の開発等により、ブランド力の向上を図る取組の企画・運営

【例えば…】

- ・農作業体験など、消費者と生産者の交流によって農林水産業を身近に感じ、次世代へつなぐ活動の企画・運営
- ・地域食材を活用した料理教室の開催やレシピの提案・普及
- ・果物や野菜を使ったスイーツの開発、商品化及び販路開拓
- ・地域食材を使ったレストランメニューの開発やイベントの開催
- ・子供を対象とした、食育活動やイベントの開催

## ⑧ 発達障害児(者)及び家族への相談支援の推進

発達障害は、本人や家族が障害に気付かない場合や発達障害でないかと不安を持っていても、専門医や専門機関に相談するのには抵抗感を感じている人が多いことから、そのような悩みや不安を持つ人が相談できる場等を提供する取組

【例えば…】

- ・発達障害の不安や悩みを持つ人や家族を対象とした相談会
- ・学齢期の発達障害児や家族を対象とした、小学校、中学校等への出張相談会
- ・発達障害の不安や悩みを持つ人を対象とした電話相談

## ○応募資格

岡山県内に事務所又は備中県民局管内に活動場所を有する団体で、次の要件を全て満たす団体とします。また、複数団体をメンバーとし、応募することも可とします。

なお、個人は対象としません。

1. 県民局管内で事業実施できること。  
※県民局の管内は、倉敷市、笠岡市、井原市、総社市、高梁市、新見市、浅口市、早島町、里庄町、矢掛町の7市3町です。
2. 提案事業の遂行に必要な組織・人員を有し、県民局と協働し、提案事業を最後まで適正に実施でき、実績報告が提出できること。
3. 組織の運営に関する規則（規約、会則等）又はこれに準ずるものがあること。
4. 予算・決算を適正に行っていること。
5. 原則として、1年以上継続して活動していること。  
（任意団体が特定非営利活動法人化した場合は、任意団体活動歴を含む。）
6. 宗教活動や政治活動を主たる目的とした団体ではないこと。
7. 特定の公職者や政党を推薦し、支持し、反対することを目的とした団体ではないこと。
8. 暴力団又はその構成員の統制下にある団体ではないこと。

## ○応募できる事業数

1 団体あたり 2 事業まで応募できるものとします。  
（ただし、自由テーマを除き、同一テーマでの 2 事業の応募は不可とします。）

## ○審査・選考及びプレゼンテーション

1. 審査、選考は、学識経験者、NPO関係者等から構成された「備中県民局協働事業審査委員会」が行います。
2. 第一次審査（書類選考）で選考された提案について、第二次審査（プレゼンテーション／最終選考）を実施しますが、当日ご参加いただけない場合は、審査の対象外となります。

## ○協働事業協定書の締結（事業化の決定）

第二次審査で選考された事業を提案された団体は、事業内容等について県民局の担当部所と協議を行い、県民局との合意を得た場合に事業化が決定することとし、合意内容を記載した協定書を締結します。

※ 第二次審査で選考された段階では、まだ事業化の決定ではありませんので、ご注意ください。

## <参考：応募制限>

平成27年度事業募集から、備中県民局における本制度において、応募時点で、団体として既に4回以上採択された事業は応募を不可とします。

なお、今回募集している平成26年度事業募集については、事業の採択回数による応募制限はありません。

## ○募集事業の条件

協働実施する事業は、「募集テーマ」に沿ったもので、次の条件の全てを満たす事業とします。

1. 公益的、社会貢献的的事业であり、広く社会的課題の解決が図られること。
2. 県民局と協働することにより、相乗効果が得られる事業であること。
3. 地域住民のニーズが認められ、実施により地域住民の満足度が高まる事業であること。
4. 特定の地域を対象とする事業については、先進性、先駆性が認められ、他の地域への波及が期待できるものであること。
5. 予算見積が適正であり、必要最小限の経費となっていること。
6. 原則として、平成26年度の単年度事業であること。  
（終期：原則として、平成27年2月末）

※ 対象外とするもの

次のいずれか1つに該当する事業は、対象外とします。

- ① 営利を目的とする事業
- ② 特定の個人や団体のみが利益を受ける事業
- ③ 施設等の建設及び整備を目的とする事業
- ④ 岡山県から他の予算により助成を受けている（受ける計画のある）事業  
※ その他、県の他の補助事業に応募可能な事業は、採択を見合わせる場合があります。
- ⑤ 国、他の地方公共団体及び他団体からの助成等を受ける計画のある事業で、その助成が受けられなかった場合、事業の執行ができなくなる（事業縮小、資金調達ができない）事業

## ○備中県民局の経費負担

1. 事業費のうち県民局が負担する経費は、提出された事業計画書や収支予算書により事業毎に判断することとします。  
（選考されても申請額どおり認められない場合もあります。）
2. 県民局の負担する経費については、次の取扱を原則とします。
  - ① 団体として、これまで本制度において採択されたことのない事業は、補助率10分の10とし、上限を1件につき200万円とします。
  - ② 団体として、これまで本制度において1回でも採択されたことのある事業は、補助率2分の1とし、上限を1件につき100万円とします。
3. 実施する事業の執行に直接必要とする経費を負担するものとし、事業と関わりのない経費（団体の管理運営費等）は対象外とします。
4. 県民局が事業経費を負担した場合において、事業実施後に余剰金が発生した場合は、返還を求めます。

## ○事業の流れ(スケジュール)

公募期間	→	第一次審査	→	第二次審査	→	事務説明会	→	関係部所	→	協定書の締結	→	事業	→	事業評価
		(書類選考)		(プレゼンテーション)		の開催		との調整		事業開始		実施		
H25.12.10～H26.1.28		H26.3中旬		H26.4.18(金)		H26.4下旬								H27.3